

## 令和3年度 まちづくりを考える日 実施報告

- 1 日時 令和3年11月10日(水) 13:00~16:15
- 2 会場 くにびきメッセ 国際会議場 (松江市学園南1丁目2番1号)
- 3 目的 多くの市民の皆さまと一緒に身近な地域活動や取組に触れながら、まちづくりを共に考え、実践がイメージできる機会を提供する
- 4 内容 地域の取組事例発表

### 5 参加状況

#### 【会場】区別参加者数

区分	参加者数			
共創のまちづくり推進委員	11			
町内会・自治会連合会	26			
企業	7			
公民館	4			
地区社協	5			
市民活動団体	13			
議員	1			
市民	2			
	0	事務局	発表者	合計
参加者(会場)合計	69	22	12	103

#### 【ZOOM】区別参加者数

区分	参加者数			
企業	2			
公民館	4			
地区社協	5			
市民活動団体	2			
市民(学生、学校関係者)	2			
	0	事務局		合計
参加者(ZOOM)合計	15	1		16

#### 【合計】区別参加者数

区分	参加者数			
共創のまちづくり推進委員	11			
町内会・自治会連合会	26			
企業	9			
公民館	8			
地区社協	10			
市民活動団体	15			
議員	1			
市民	4			
	0	事務局	発表者	合計
参加者(会場)合計	84	23	12	119

## 6 発表事例

「補助金グループ」「NPO・市民活動団体グループ」「町内会・自治会グループ」の3つのグループから、合計9つの団体に事例発表いただきました。

- おらが町に新たな文化を!みんなで踊ろう「やくも音頭」 (八雲ゆう人会)
- 地域版まちづくり総合戦略事業 (持田地域まちづくり総合戦略実行委員会)
- Happiness on Palette2.0 (しまねLINK)
- あまころエール弁当 (松江市社会福祉協議会 中央地域福祉ステーション)
- 就学援助世帯へのフードバンク (フードバンクしまね あったか元気便)
- 城北福祉まつり (城北地区社会福祉協議会)
- 高齢者移送支援ボランティア「菅浦<sup>てご</sup>手助す一隊」 (菅浦区自治会)
- 一緒に作ろう「畑」で作物プロジェクト (白潟地区社会福祉協議会)
- 忌部地区防災訓練 (忌部自治協会)



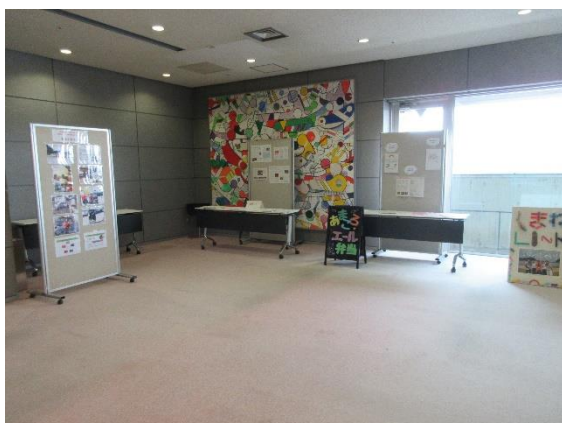
事例発表の様子①



事例発表の様子②

## 7 パネル展示

希望された事例発表団体や市民活動団体に、取組をパネル展示していただきました。休憩時には特に多くの方にご覧いただきました。



パネル展示の様子①



パネル展示の様子②

## 8 アンケートより(抜粋)

### 【回収状況(事務局を除く)】

参加者数	回収数	回収率
84	65	77%

### 【時間に関して】

#### 短い

- 内容により各団体あたりの内容を詳しく聞けるようもう少し時間を取っていただきたい。
- 1団体の持ち時間が短く、深く知ることが難しかった。
- 発表団体が多い為、持ち時間が少なく、十分に内容が伝わらないよう感じた。検討を願いたい。

#### ちょうどよい

- 発表時間が少し短めな点が聞いている側からするとテンポよくちょうどよく感じました。
- 全体 3 時間であったが、発表も多く、ひとつひとつは簡潔に行われていたので、時間の長さは感じなかった。
- 年明けに発表団体と興味があるところで話が出来る場を設けるということで、今回聞いてもっと聞きたいという方々を繋げる良い機会になったと思います。そう考えると各団体の発表の長さも周知の場としてはちょうど良かったです。(Z)

#### その他

- 3部に別れて開催された。1部が終ったとき、準備の為に10分程度の休憩必要。2部が終った時は20分ではなく10分くらいのトイレ休憩が良いのではと感じた。(Z)

### 【会場運営】

#### 音声

- 発表者の中でマイクの使い方が上手でなく、聞きづらい場合もあった。司会・進行役で気を付けて正してもらいたかった。(大きく、ハッキリした声で発表してもらう)

#### 機材の使い方

- 八雲の画面、チラチラして読めなかった。PCを事前に練習して来てほしい。

### 【今後の事業への提案】

#### 発表内容

- 「まちづくり」をもっと多方面に考えるべきではないか、と思った。厚生福祉関係、<sup>じげ</sup>地下おこし(地域おこし?)関係だけでなく、芸術、文化、観光、スポーツ、体力づくり等・・・。

#### 参加者

- 若者グループの参加(発表者、会場参加)がほしい。
- せっかくすばらしい発表なので参加人数増を考えてもらう事。

## 資料

- 各発表資料の事業内容欄をもう少し詳しく、スペースを当てて資料作りをしてほしい。聴講しやすくなる。

## 【その他】

### 参考になった、勉強になった、貴重な機会だった、有意義だった

- いろいろな活動をされていて、とても参考になったし、地域の役に立つようなことを考えていきたいと思った。その為には、もっと自分の公民館区や自分の住んでいる地域性を研究しないといけないと感じた。自治会高齢者輸送に関しては竹矢でも課題の一つになっているので参考にしたい。
- 地域の皆さんの様々な活動について内容工夫苦労した点等発表質問への回答で詳しく知ることができ、今後企業として地域との関り方を考えていく上で有意義なイベントであった。
- 市長さんがすべての発表者にコメント、質問をされていて感心(素晴らしい!)しました。いろいろと参考になりました。ありがとうございました。
- 各団体の情報交換(実施方法、支援の求め方、企業の関わり方など)として、参加者の皆さんにとっても参考になったのではないかな。

### (自身の活動について)考えさせられた、頑張っていこうと思った

- 今後の活動を行うにあたって、たくさんのヒントをいただき、考えさせられました。自分たちのところで関係者との共有を図り、今後の活動が少しでも充実するよう努力したいと思います。
- 自分の住んでいるまちにあてはめながら「まちづくり」について考えるイベントになった。人と人とのつながりをつくる、近所-自治会-地区全体それぞれの立場でつくり広げていくそのことをいつも頭の片隅におきながら日々業務にあたりたい。
- 菅浦手助す一隊は、当地区でも取組を検討したいと思います。それぞれの発表を参考に町づくりの発展というか継続に頑張りたいと思います。

### 各団体の取り組みに感動した

- 持田の大学等との連携、地域資源を活かした共創の取り組み、市、行政に頼ることなく手づくりで様々なアイデアは素晴らしい。企業と地域団体活動をつなげることが大事。
- 「何のために取り組まれるのか」が明確であったこと、地域固有の資源(人、モノ、産業、自然など)を工夫しておられること、多くの人の関わりを広げながら取り組まれていることに感動しました。

### 松江市やまちづくりについて

- 自治会公民館等の関心の高さが伺えた。現時点では個人の力が大きいと感じた。持続可能な取り組みをするには仕組み組織として引き継がれる形を模索する必要があるのではないかな。すべての活動に公民館社協が関係しておりハブとして機能を発揮できればそれぞれ活動の連携繋がりができるのではないかな。

企業としては社会貢献寄付の形ではなく事業としてかかわるには正直まだ道筋が見えないという感想です。

●これからの松江市は、民間発信、行政支援型を定着目指して、まちづくりにつなげることが重要と考えました。

今までに各地域へ総合戦略の説明の中にまちづくりの具体性がないのが残念です。

今回の各地区から発信された内容をもっと広げるべきと思われます。

●地域活動において自治会、(地区)社協、公民館、これらの団体のはたす役割の大きさを再認識しました。

●事業の継続性についての質問がありました。これには事業を実施するスタッフの後継者の継続性を保っていく必要性を感じた。それと事業に参加する人を確保していく必要性を感じた。事業の継続性・スタッフの後継者の育成 or 事業への参加者の確保。(Z)

#### 「まちづくりを考える日」について

●地域で活動活躍されている皆様の発表の場があることは素晴らしいことだと思います。

●今後ますますこういう機会を増やすことが情報発信につながると思います。

●地域活動に取り組みされる公民館や自治連など地域の核となっておられる団体の皆様と先駆的な取り組みを共有できる本日のようなイベントは参加者に色々な気づきを与えてくれたと思います。来年度も継続して開催されるよう希望します。ありがとうございました。

●地域の主体的活動の発表の場は必要。(Z)

次の課題は、好事例の共有が化学反応を起こし、良い取り組みが広がること。(Z)

イベントの継続、情報発信、交流促進に期待します。(Z)

## 9 まとめ

初めての開催であったが、参加者の方からの声やアンケートを踏まえると、このイベントの目的である「まちづくりを共に考え、実践がイメージできる機会を提供する」を達成できたと考える。また、今後も続けてほしいという声が多数あり、次年度以降も継続していきたいと考える。

各発表団体の時間が短いという声があったが、これは発表を聞いて、興味をもった発表団体と直接話が出来る『共創・協働マーケット』へつなげることを想定しての構成であった。その趣旨の周知が不足していたことも起因していると思われるので、次年度への反省としてつなげていきたい。

また、今回はコロナ禍ということもあり、参加者の人数や参加者の呼びかけを制限した。参加者に若者が少ないという声や偏っているという声、もう少し参加人数を増やしてほしいという声もいただいているため、コロナの状況が落ちついた後は、地域の関連する全ての皆さまに参加していただけるようなイベントにしていきたいと考えている。

その他、会場運営や発表事例の選定について、次年度に向けて見直し検討すべき点がある。共創のまちづくり企画運営委員の皆さまや共創のまちづくり推進委員の皆さまにご意見を伺いながら、よりよいイベントとなるようブラッシュアップを図っていきたい。

そして、市民の皆さまと一緒にまちづくりをするため、共創・協働の一層の浸透を進めていきたい。